

轟 と ど ろ

平成21年1月27日

1月号

3学期は大雪でスタート



3学期は、地域の慣習にならって三宮参りで今年の願掛けを行ったあと始業式に挑みました。お正月に積もった雪に三連休のドカ雪が重なり、子どもたちは大喜びです。早速、運動場に出て元気に駆け回り、雪合戦に雪だるまづくりと大ハッスルでした。休み時間には、教室のベランダに垂れ下がる氷柱(つらら)を担当の先生は安全を確認して氷柱落としの作業をします。

みんなで お餅つき



三学期始業式の日には、地域の方や保護者そして子どもたちと先生方による餅つきが行われました。高尾さんのご協力での生産活動を体験しましたが、餅つきは、その最終段階ということもあり沢山の方に参加いただきました。学校で杵と臼を使って子ども一人一人が餅をつき、そして丸める活動は本校ならではの自慢の取組です。餅つきが終わると、参加者全員がテーブルに着いてお餅をいただきました。それはそれは、美味しゅうございました。

校区全家庭を訪問してモグラ打ち

毎年1月14日には、子どもたちによるモグラ打ち行事が夕方から午後10時にかけて、校区の全家庭を訪問して実施されます。今年も「○○さんところの たかなの なえどころは、どこでござろうか、いおうて良からうか、いおうて悪からうか、二つに一つの返答をください。・・・きとうない、きとうない。わたが出た、わたが出た。」と全員で言いながら全家庭を廻りました。



校長コラム

幼い時に我が家にも孟宗竹が植えてありました。雨や雪が降った時にはしなだれ、台風にあおられながらも必死に耐え、晴れた日に生き生きと天に向かって伸びる竹は、大好きです。ご存じのとおり竹に節はあるものの、中は空洞です。こんな構造でよく倒れないものだと感心させられます。もし竹に節がなかったら、あの高さまで成長できないでしょうし、風雪に耐えられません。竹の節は太さや高さ、育つ場所によって節の形や間隔が違います。竹にとって、この節は大変重要な役割を担っているのです。

さて私たちは、人生で負けることが多いものです。失敗することも多いし、くじけることが多いものです。色んな試合に出ると、優勝した1チーム以外は負けを体験します。人間は、人生の中で何度も何度も失敗を繰り返すことも多く、時には果敢に挑戦して跳ね飛ばされ、悔しくて泣きじゃくり、自暴自棄に陥ることを経験します。そのくじけた時・悩んだ時に時・泣きじゃくった時が、竹の節つまり、自分が強くなる節を作っている時です。逃げれば形成されず、深ければ頑丈に、浅ければ、ひ弱になります。いま子どもも大人も、危険、汚い、きついことを回避する風潮があります。人生の風雪に耐えられる人間に育てるために、苦難に敢えて挑ませる機会を定期的に設けて、人生の節を築かせ、耐える経験を踏ませることで逞しい生き方ができるよう願って教育を進めています。

後部座席もシートベルトの着用を

昨年6月に道路交通法が改正され、車の後部座席に乗車する人もシートベルトの着用が義務づけられました。実は、本校のホームページでもお知らせしたとおり、昨年12月に八代市内の女子中学生2人が家族の運転する乗用車の後部座席に乗車中にセンターラインを超えてきた車と正面衝突する事故の被害に遭いました。残念ながら後部座席でシートベルトをしていなかったために、前方に飛ばされダッシュボードやシート等で強打し、一人は入院をしました。シートベルトを着用していれば軽度の怪我で済んだかもしれません。大切な大切な家族ですから万一の事故を想定して、運転者は同乗者に一声をかけてシートベルト着用の確認した上でスタートされますようにお願いします。



後部座席のシートベルトの必要性
シートベルトを締めていないと……

前席乗員が頭部に
重傷を負う確率が
着用時の**51倍!**



時速40kmでコン
クリートの壁に正
面衝突した場合

体重の30倍以上の衝撃(体
重60kgの人で1.8t以上)
で、乗員同士が激しくぶつ
かりあいます。*

車内のどこに乗っ
ていても、この衝
撃の大きさは同様
に伝わります!

校区民全員の無病息災を願って、どんどやを実施



14日のモグラ打ちに併せて、昼間に校区民全員の無病息災を願って、どんどやが行われました。正門近くに運動会で作った杉門にお正月のしめ縄や竹などを高く積み上げました。火を入れると勢いよく燃えだし、竹が破裂する音にびっくりしながらも、みんなで健康を願いました。

当日は、テレビ東京の取材もありましたが、残念ながら熊本では放映されないそうです。

